

令和8年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第3回議事録（要旨）（案）

日 時：6月26日（金）午後6時30分～8時30分

会 場：武蔵野プレイス スペースC

出席者：委員 9名（大上委員、山崎委員、松田委員、薦田委員、北山委員、神保委員、猿渡委員、和田委員）

欠席者：中里委員、杉田委員、田辺委員、牛田委員、島津委員

傍聴者：0名

事務局：4名

1 開会

2 議題

（1）夏季平和事業について【資料1】

- ・事務局より、夏季平和事業の概要および当日の役割分担等について説明。役割分担については次回決定する旨、説明。また、8月16日の従事時間についても確認。

【事務局】 夏休み期間中に市で大学生インターンを受け入れる予定となっており、市民活動推進課として夏季平和事業等への参加について担当部署に要望している。夏季平和事業への従事時間についての意見を求めたい。

【委員】 講師の希望に沿った形で進めてよい。

【委員】 会場に近い参加しやすい。ただし、8月15日は出席できない。

【事務局】 講師の希望に沿う方向で準備を進める。

（2）平和の日イベント（案）について【資料2-1】【資料2-2】

- ・事務局より、平和の日イベントの日程や会場等の概要を説明。
- ・委員から提案のあったイベント案への補足説明および意見確認。
- ・事務局から小学校合唱団を招へいした場合の想定について提示したうえ、出演を依頼するか意見を求めた。
- ・追加の案がある方は7月5日（日）までに事務局へ提案していただくよう説明。

【委員】 小学校合唱団による集客効果に期待できる。曲目については、戦後も歌い継がれている国民歌謡（例：「われは海の子」「佐渡の秋」など）が平和の日のイベントにふさわしいのではないかと。また、合唱グループ「風」への依頼はどうか。

【事務局】 ある程度の曲目リクエストは伝えられるが、まず出演を引き受けてもらえるかを確認する必要がある。どこに依頼するかよりも、合唱を企画に盛り込むかどうかについて意見をいただきたい。なお、「風」は令和5年度の夏季平和事業で実施した実績がある。

【委員】 小学校の合唱部が課外活動として出演するという理解でよい。

【事務局】 小学校に依頼する場合はそのようになる。

- 【 委 員 】 小学生の子どもたちに興味を持ってもらえる案として、合唱公演も選択肢として承知した。仮に合唱公演を行う場合、セットで行う講演の内容も親子向けにする必要があると思うが、今ある企画案ではそれに対応できるものが少ない。合唱公演を前提に新たな講演の案を練るか、対象がそれより上の年齢層にはなるが、今ある企画案から選択するか、方針を検討する必要がある。また、合唱が今回実現しなかった場合でも廃案にせず、5月などの別の機会に実施できるとよい。親子向けの企画としては、前回から提案のあったスタンプラリーを検討してはどうか。
- 【 事 務 局 】 スタンプラリーについては、平和の日イベントまでに企画するには検討事項が多いため、スタンプラリーを実現させるための方法を研修として委員全員で検討してはどうかと考えている。
- 【 委 員 】 現在、土日は教員が休日のため引率が難しいのではないかと。合唱団の企画として、講演と組み合わせるのではなく、合唱単独の企画とする方向もある。また、合唱団自身に企画立案を担ってもらうのはいかがか。
- 【 委 員 】 どの合唱団かが具体的に決まっていない段階では議論が難しい。合唱団に企画まで依頼すると先方の負担が大きくなる。企画やターゲットを明確にしてから依頼するべきだ。11月開催に向けては時間的余裕もないため、具体的な想定を持った上で議論を進めるべき。
- 【 委 員 】 合唱ありきの議論になっていることへの疑問がある。事務局から事前提案がなかったにもかかわらず、冒頭から合唱の話題に多くの時間が割かれたことが不満である。委員それぞれから提出されている提案についても議論を深めたい。平和や戦争をテーマとしたイベントは集客しにくい面があるため、参加しやすい企画の中に平和のエピソードを組み込む形が望ましい。
- 【 事 務 局 】 合唱の提案は、実施するのであれば期限が迫っていたため、早めに方向性を確認したかった。事前に提示できなかったことは申し訳なかった。
- 【 委 員 】 これまでの会議で委員から提案された案を事務局が調査してくれたということかと思う。合唱については検討すべき点が多いため、今回は行わない方向で良いのではないかと。
- 【 委 員 】 提案した団体等への問い合わせ結果を報告する。
- ③被団協（日本原水爆被害者団体協議会）：講演できる人材が限られており、「日時・企画・ターゲット」を具体的に固めた上で正式に申し込まなければ対応できないとのこと。
- ④中満泉氏：11月は国連関連のイベントが多く多忙なため、出演は難しいとのこと。
- ⑤UNHCR：小中学生向けワークショップがあるが、テーマは難

民に限られており、紛争や民族・宗教を絡めた内容への対応は難しいとのこと。

被団協を除き、実現は難しいことが分かった。被団協についても、詳細を明確にしたうえで正式依頼をした後に対応の可否がわかることになる。

【事務局】 田辺委員から事前に連絡があり、久保田弘信氏は現在骨折のため入院中であり、再来年度以降が望ましいとのこと。他にも、被爆体験者の方やおざわゆき氏、小林エリカ氏を推すご意見をいただいている。

【委員】 私の提案はいずれも「語り部」活動をされている方。

⑬里見まさと氏：講談師として戦艦大和について語る方。お笑いコンビの「ザ・ぼんち」が解散後、講談活動を始められた方で、集客も見込める。プロの話芸を通じた「語り部」活動であり、政治的中立性も期待できる。ただし、多忙かつ講演料が高額の可能性がある。講談は30分程度。

⑭戦後世代の語り部：講話時間は各20分程度で、中国帰国者支援センター（中国残留孤児の話）としょうけい館（沖縄戦でケガをした少女の話）の2組でできれば参加者の注目を引くのではないかと。語り部活動の実績もあり。無料で、厚生労働省から委託のため政治的に中立。

その他、田辺委員推薦の田島氏を推薦したい。

「語り部」の活動は戦後80年以上を経ている今、記憶の継承という観点から重要だと考えている。

【委員】 ⑩⑪は映画と講演のセットで行うことを想定。

映画館でも同じ形で、上映後にトークが行われたことあり。

⑩映画「ガザからの声 episode 1『アハマドの物語』」：吉祥寺UPLINKの会社が制作した作品で、ガザに住む人々の日常を淡々と映したもの。制作者の強いメッセージ性というよりも、観る人がガザの町中にいるような感覚になれる作品。自分事として捉えることができる内容。一箇所、衝撃的な映像がある点は懸念事項。その場合、他の話も検討可能。

⑪講演 永井陽右氏：講演者は34歳の人道支援活動家で、テロリストの社会復帰のための施設運営や人道支援に取り組んでいる。大学でのオンライン講演実績もあり。講演では、ガザの現状や、講演者自身が紛争地で見出した「テロに対する平和的解決方法」などをお聞きしたい。講演者が日々模索しながら新しい発想をとり込んでいく姿に若い参加者も共感できるのでは、との思いもあり提案した。

【委員】 久保田氏が出演不可となったのは残念。知名度や内容の魅力がなければ集客は難しい。残りの候補から選ぶということか。

【事務局】 新たに案を出していただくことも可能。

【委員】 今の候補の中では「おざわゆき」氏の知名度が高いのではないかと。里見氏とおざわ氏の組み合わせも候補になるのではないかと。

か。

- 【事務局】 今後の進め方として、新たな提案がある場合は7月5日（日）中にメールで提出いただきたい。現在の資料から実現が難しい案を除いた上で、新たな提案を加えて整理し、次回の委員会に提示する。次回委員会までの意見を踏まえて、平和の日イベントの企画を決定する予定。
- 【委員】 コロナ禍前まで実施していた「すいとんを食べよう」という取り組みはなくなったのか。
かつては平和の日に近い日程で実施していたため、この場で発言した。
- 【事務局】 平和の日イベントとしての実施ではなく、以前の取り組みを再開することの提案ということかと思う。
- 【委員】 子どもや若者への告知として、市報以外にどのような手段を活用しているか。
- 【事務局】 市内小中学校児童生徒の保護者へデジタル配信で広報を実施しているが、紙媒体とは違い子ども同士が誘い合うきっかけにはなりにくい。市の公式 SNS（LINE・Instagram・Facebook 等）でも配信している。
- 【委員】 プレイス 1 階の大きな掲示板や、地下 2 階の青少年フロアへの掲示やチラシも検討してほしい。市の SNS を見る若者は多くないと思われるため、人の目に触れやすいよう広報を工夫してほしい。また、成蹊大学といった市内の大学の掲示板などにも掲示できないか検討してほしい。
- 【事務局】 大学においては、包括連携協定の枠組みを活用できないか確認してみたい。
- 【委員】 パネル展の場でチラシを配布したり、掲示したりすることも有効ではないか。学校に貼ってもらっても、子どもの目に届くとは限らない。コミセンや児童館など子どもが来る施設への掲出も検討してほしい。
- 【事務局】 いずれも検討する。
- 【委員】 今後のイベント企画のために、統計として参加者の年齢分布がわかる資料を残したい。来場者アンケートで年齢層を記入いただく際、親子での参加の場合、記入するのが保護者であれば子どもの年齢層はさることながら、参加したこと自体記録に残らない。例えば、受付時に全員に年齢層を何う対応は可能か。
- 【事務局】 アンケートだけでなく、受付時にも聞くことはできるが、必須情報以外の回答は任意項目とすることになると考えている。

（3）研修会について【資料 3】

- ・事務局より、研修について説明。また、事務局より研修会の内容案として、スタンプラリーの企画や実現に向けた検討を研修として実施することを提案。
- ・研修会の内容について、7月5日（日）までに事務局まで提案いただくよう依頼。

その案をもとに次回以降検討する。

- 【 委 員 】 武蔵野市内の平和関連スポットをめぐるフィールドワークを通じて、スタンプラリーのルートやみどころを検討するという趣旨か。各委員が候補地を提案する形でも良いのではないか。
- 【 委 員 】 市内に長く住んでいるが、市内の戦跡で知らないことも多い。グリーンパークの戦跡についての表示など実際に見て回ることは市民にとっても新鮮な体験になると思う。フィールドワーク形式の研修に賛成。
- 【 委 員 】 フィールドワークは自分自身の学びにもなると思う。
- 【 委 員 】 市外の施設への視察も提案したい。茨城県稲敷郡阿見町にある「予科練平和記念館」を推薦する。資料を持参した。学芸員が常駐していない点は欠点。自衛隊オープンハウスの時期に合わせて訪問するのも良いのではないか。
- 【 事 務 局 】 新たな提案もいただいた。研修会についても、7月5日（日）中を締切として意見を募る。
- 【 委 員 】 フィールドワークであれば、交通費は使わないという前提で市民からも参加者を募集するということか。
- 【 事 務 局 】 研修は委員のみで実施し、一般公募は行わない。

（４）その他

・第４回：7月21日（火）午後6時30分～ かたらいの道市民スペース

- 【 委 員 】 今回作成された子ども用平和啓発リーフレットの編集に実行委員が関わったか。子ども向けの資料にはやさしい日本語を使ってほしかった。
- 【 事 務 局 】 印刷前に実行委員に内容を確認いただいた。やさしい日本語に関する意見もあり、修正した箇所もあるが全ては反映できなかった。
- 【 委 員 】 今後、子ども向け資料を作成する際は、やさしい日本語の講師に内容を確認してもらおうとよいのではないか。
- 【 事 務 局 】 今後の参考にする。

3 閉会